

# 高等学校第2学年国語科学習指導案

期 日：令和3年11月12日

時 間：第6校時

対 象：第2学年E組21名

学校名：清心女子高等学校

授業者：小山 潤子

## 1 単元（題材）名

史伝「項王の最期」（司馬遷『史記』項羽本紀） 『古典B漢文編』（大修館書店）

## 2 単元（題材）の目標

- (1)『史記』の文章の優れた表現を味わう。 (関心・意欲・態度) (読む能力)
- (2)登場人物の心情を理解しようとする。 (関心・意欲・態度) (読む能力)
- (3)文脈を正確にたどり、大意を把握しようとする。 (読む能力)
- (4)読解した内容について、課題解決のための思考法を取り入れて考え、内容理解を深める。

課題解決のための思考法とは、論理的思考（ロジカルシンキング）・批判的思考（クリティカルシンキング）・水平思考（ラテラルシンキング）の三つの思考過程である。 (関心・意欲・態度)

- (5)句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳しようとする。 (知識・理解)
- (6)司馬遷と『史記』について、文学史上の知識を確認する。 (知識・理解)

## 3 単元（題材）の評価規準

知識・理解	読む能力	関心・意欲・態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・正しく訓読することができる。</li><li>・適切な現代語に翻訳している。<ul style="list-style-type: none"><li>*漢字・語句の意味を正確に理解し、現代語に置き換えることができる。</li><li>*句法を理解した上で、現代語訳することができる。</li></ul></li><li>・司馬遷・『史記』・紀伝体（既習）の知識が定着している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・文脈を正確にたどり、大意を把握することができる。</li><li>・指示語や遠回しな表現の内容を、具体的に述べるができる。</li><li>・登場人物の心情を、本文中の根拠を踏まえて述べるができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・興味を持って内容を理解しようとしている。</li><li>・課題解決のための思考法を用いて考え、理解を深めようとしている。</li><li>・他の生徒の意見をよく聞き、理解しようとしている。</li></ul>

## 4 指導観

### (1)単元（題材）観

史伝は、詩文・思想・史伝の漢文における三学習領域の一つである。すぐれた文章が多く、生徒の歴史や文化への関心を大いに喚起する。教科書では春秋戦国・秦末漢初を扱った文章を学習する。

## (2)教材観

司馬遷『史記』は、巧みな人間像の描出、簡潔な表現、見事な構成等で我が国の先人たちにも親しまれてきた。

本題材「項王の最期」は、既習の「鴻門の会」同様、漢楚の興亡の一場面を扱った題材であるが、「鴻門の会」とは異なる項羽の人間像が描かれている。これらの教材を読み合わせることで、人間の持つ多面性に思いをいたすことが期待できる。今回は、課題解決のための思考法を取り入れ、歴史の「もし」を考えることで内容理解を深めていくが、様々な読みの可能性を内包した、豊かな文章である。単に古典への関心を高め、漢文の読解力を高めるのみにとどまらず、文学に親しむ心を育む、優れた題材と言えよう。

## (3)生徒観

国公立大学への進学を希望する集団であり、文系・理系が混在する。学習意欲は高く、学習に対する態度も安定して良好であるが、国語（文学）への興味・関心は、必ずしも高い生徒ばかりではない。

まずは、進路実現に必要な学力をたくわえるため、「知識・理解」と、論理的思考力と表現力に裏打ちされた「読む能力」（・「書く能力」）の育成が求められる。古典において、古典文法・漢文句法、語彙等の言葉に関する知識は、文学作品中にランダムに現れるため、系統立った理解につながるよう心がけねばならない。文学史の学習は、まだ十分ではないが、「知識・理解」については一定の到達段階に達しているだろう。「読む能力」（・「書く能力」）には、まだまだ伸び代がありそうだ。

## 5 年間指導計画における位置付け

学年	第1学年	第2学年	第3学年
単元（題材）名	古代の史話「歴史と人間」	史伝－『史記』本紀	史伝－『史記』列伝
主な内容	・「先従隗始」（『十八史略）	・「鴻門の会」, 「項王の最期」	・「風蕭蕭として易水寒し」

## 6 単元（題材）の指導計画と評価計画（全6時間扱い）

時	★目標 ○学習内容 ・学習活動	■評価規準（評価方法）
第1時	★「鴻門の会」から「項王の最期」に至るまでの経緯を把握し、本文を訓読する。 ○文学史を確認する。 ・指名発表 ○導入文を読み「項王の最期」に至るまでの経緯を把握する。 ・指名音読 ○本文を訓読する。 ・指名音読 → 範読	■司馬遷・『史記』・紀伝体（既習）を答えることができる。 [知識・理解]（発表） ■興味を持って経緯を把握しようとしている。 [関心・意欲・態度]（観察） ■正しく訓読することができる。 [知識・理解]（指名音読）
	★句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳する。 ★登場人物の心情を理解する。 ○「四面楚歌」を口語訳する。 ・指名発表	■適切な現代語に翻訳している。 [知識・理解]（発表） *漢字・語句の意味を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。 *句法を理解した上で、現代語訳することができる。

	<p>○項王が驚いた理由を考える。 ・指名発表</p>	<p>きる。 ■登場人物の心情を説明することができる。 [読む能力] (発表) *本文中の根拠を踏まえている。 *状況説明ができています。</p>
第3時	<p>★登場人物の心情を理解する。 ★句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳する。</p>	
	<p>○項王の詩について考える。 ・指名発表</p> <p>○「項王の最期」を「烏江亭長」の発言まで口語訳する。 ・指名発表</p>	<p>■登場人物の心情を説明することができる。 [読む能力] (発表) *詩中の根拠を踏まえて説明することができる。 ■適切な現代語に翻訳している。 [知識・理解] (発表) *漢字・語句の意味を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。 *句法を理解した上で、現代語訳することができる。</p>
第4時	<p>★句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳する。 ★登場人物の心情を理解する。</p>	
	<p>○「項王の最期」の、「烏江亭長」に対する項王の発言と行動を口語訳する。 ・指名発表</p> <p>○項王が江東に渡らない理由を考える。 ・指名発表</p>	<p>■適切な現代語に翻訳している。 [知識・理解] (発表) *漢字・語句の意味を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。 *句法を理解した上で、現代語訳することができる。 ■登場人物の心情を説明することができる。 [読む能力] (発表) *本文中の根拠を踏まえている。</p>
第5時	<p>★句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳する。 ★表現の内容を理解する。</p>	
	<p>○「項王の最期」の、最後の戦いと自刎までを口語訳する。 ・指名発表</p> <p>○「吾為若徳」とは、具体的にはどのようなことを考える。 ・指名発表</p> <p>○杜牧「題烏江亭」を訓読し、口語訳する。 ・指名発表</p> <p>○課題解決のための思考法を学ぶ。</p>	<p>■適切な現代語に翻訳している。 [知識・理解] (発表) *漢字・語句の意味を正確に理解し、現代語に翻訳することができる。 *句法を理解した上で、現代語訳することができる。 ■表現の内容を説明することができる。 [読む能力] (発表) *本文中の記述を踏まえている。</p>

	○杜牧の意見について考える（課題） ・ワークシート記入	
第6時 (本時)	★課題解決のための思考法を取り入れて考え、内容理解を深める。	
	○課題解決のための思考法を確認する。 ○杜牧の意見を確認する。 （ワークシート【一】）論理的思考 ・指名発表 ○杜牧の意見に反対する立場から意見を述べる。 （ワークシート【二】）批判的思考 ・指名発表 ○自分の意見を述べる。 （ワークシート【三】）水平思考 ・指名発表 ○「項王の最期」を振り返る。	■意欲的に活動に取り組んでいる。 [関心・意欲・態度] （観察）・（発表） （ワークシート） *自分の考えを、根拠を挙げて述べることができる。 *課題解決のための思考法を用いて考え、理解を深めようとしている。 *他の生徒の発表をよく聞き、理解しようとしている。

## 7 指導に当たって

- (1) 目標2) 登場人物の心情を理解しようとする。 (関心・意欲・態度) (読む能力)  
→ 登場人物の心情が表れた箇所を用い、人物の心情を考える時間を設ける。
- (2) 目標3) 文脈を正確にたどり、大意を把握しようとする。 (読む能力)  
→ 指示語や比喩、遠回しな表現が具体的にはどのようなことを意味しているかを考える時間を設ける。  
\* 2)・3) については、他の集団より短い時間で、適切な解に至ることが期待される。一部を文章化したり、より深い考察を行ったりする時間を設ける。記述の際は、本文中の根拠をふまえてまとめるよう助言する。
- (3) 目標4) 読解した内容について、課題解決のための思考法、すなわち論理的思考・批判的思考・水平思考を意識して考える。 (関心・意欲・態度) (読む能力)  
→ 課題解決のための思考法を意識し、歴史の「もし」を考える。  
批判的思考・水平思考の際にも、可能な限り根拠を示すよう助言する。
- (4) 目標5) 句法・語句を正確に理解し適切な現代語に翻訳しようとする。 (知識・理解)  
→ ・正しく訓読していることを確認する。  
・句法・語句を正確に理解し、適切な現代語に翻訳しているかを確認する。  
・注意すべき句法・語句を確認する。  
\*最も丁寧に行うべき事項。他の全ての活動を支えるのは、本文の正確な読解である。  
\*本文訓読・口語訳は、2)・3)の活動の進行に沿って行う。
- (5) 目標6) 司馬遷と『史記』について、文学史上の知識を確認する。 (知識・理解)  
→ 「鴻門の会」で学習した文学史(司馬遷『史記』について)を再確認する。  
\*目標1「『史記』の文章の優れた表現を味わう。(関心・意欲・態度) (読む能力)」は、以上の工夫・手立てが機能し合うことで達成にいたる。

## 8 本時（全6時間中の6時間目）

### (1)本時の目標

課題解決のための思考法を取り入れて考え、内容理解を深める。

### (2)本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入 （五分）	○前時までの学習を振り返る。 ・課題解決のための思考法を確認する。		
	○杜牧の詩を読む。 ・指名音読		

本時のめあて  
課題解決のための思考法を取り入れて考え、内容理解を深めよう。

○杜牧の意見を確認する。  
 （ワークシート【一】）論理的思考  
 ・指名発表①②「杜牧の考え」  
 ③「詩の中の根拠」

○杜牧の考えに反対する立場から反対する理由を考える。  
 （ワークシート【二】）批判的思考  
 ・ワークシート記入

○杜牧の考えに反対する理由を発表する。  
 ・指名発表

○自分の意見とその理由を考える。  
 （ワークシート【三】）水平思考  
 ・ワークシート記入  
 ○自分の意見とその理由を発表する。  
 ・指名発表

○詩の中に「杜牧の考え」を判断する根拠があり、このように根拠に基づいて考える考え方が「論理的思考」であることを実感できるよう声かけをする。

○机間巡視。進捗状況を確認する。  
 \* 考えあぐねている様子が見られれば、前後左右の生徒と意見交換をするよう声かけをする。

○情報を鵜呑みにせず（ここでは杜牧の考えに同調せず）、いったん自分の頭で考えてみる考え方が「批判的思考」であることを実感できるよう声かけをする。  
 \* 批判的思考に基づいて意見を述べる際も、論理的であることが説得力につながることを指摘する。

○既成概念や常識の枠を外して、多角的にとらえて自由に思考する考え方が「水平思考」であることを確認する。  
 \* 水平思考に基づいて意見を述べる際も論理的であることが説得力につながることを指摘する。

■意欲的に活動に取り組んでいる。

[関心・意欲・態度]  
 （観察）・（発表）

・杜牧の考えを理解しようとしている  
 ・根拠となる部分を指摘することができる。  
 ・他の生徒の発表をよく聞き理解しようとしている。

・杜牧の考えに対する反論の根拠を指摘することができる。  
 ・他の生徒の発表をよく聞き理解しようとしている。

・自分の考えを、根拠を挙げて述べるができる。  
 ・課題解決のための思考法を用いて考え、理解を深めようとしている。  
 ・他の生徒の発表をよく聞き理解しようとしている。

まとめ (五分)	○「項王の最期」を振り返る。	○課題解決のための思考法によって、本文への解釈がどのように変化したか、または深まったかを問いかける。	
	<p>まとめ</p> <p>様々な視点から考察を加えることで、分かったと思っていたことでも、新しい発見があったり、理解が深まったりすることがある。他の文章も読み直してみてもはどうだろうか。</p> <p>課題解決のための思考法は、文学の解釈以外でも様々なヒントを与えてくれる。今後の日常の中でも、この思考法を意識してみよう。</p>		
	○ワークシート提出。	○ワークシート提出について指示する。 ○次時の指示。	(ワークシート) ・杜牧の考えに対する反論を根拠を挙げて適切に表現し、述べるができる。 ・自分の意見を、根拠を挙げて適切に表現し、述べるができる。

(3)板書計画

課題解決のための思考法で考えよう  
もし、項王が江東に渡っていたら  
「論理的思考」杜牧の考え  
題烏 江亭 杜牧  
勝敗 兵家事不期  
包羞忍耻 是男儿  
江東子弟多才俊  
卷土重来未可知

「批判的思考」杜牧への反論  
項王は江東に戻らない方が良かった。  
その理由は、  
・(例)江東の民が全員項王を支持しているという保証はない。  
・(例)項王の意志を尊重すべきだ。

「水平思考」あなたへの考え  
戻った方が良かった  
(例)結果がどうなるかは分からないが、項王には勝たせてあげたいと思わせる何かがある。

戻らない方が良かった  
(例)次に戦場になるのは江東(楚)だろう。項王は故国を戦場にしたくなかったのではないか。

※① ~~~  
② —

※初句・結句も指摘してほしい。